

授業科目名	課題解決型データ分析論特講1
科目番号	OBTS011
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春BC集中
担当教員	岡田 幸彦
授業概要	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになることを目標に、社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL001と同一。 6/26,7/10
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の創成力、研究力、専門知識
授業の到達目標(学修成果)	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになる。
授業計画	受講生の事前知識と理解度により、柔軟に内容を変更する。2021年度はオンラインで集中講義として実施予定である。 第1回 経験的・実証的研究の役割と体系 第2回 経験的・実証的研究とデータ分析 第3回 量的データの分析 第4回 質的データの分析 第5回 確認型のデータ分析 第6回 探索型のデータ分析 第7回 パネルデータの分析 第8回 実験データの分析 第9回 実証研究計画プレゼンテーション 第10回 複雑な因果メカニズムの分析にむけて
成績評価方法	発言40%、プレゼンテーション20%、レポート40% 評価基準(A+, A, B, C又はD)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	テキスト 中室・津川『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社。 参考図書 授業中に適宜指定する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	授業前後に受け付ける。 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	なし
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	データ解析

授業科目名	課題解決型データ分析論特講2
科目番号	OBTS012
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋A集中
担当教員	岡田 幸彦
授業概要	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータCoEの成果を取り上げることを中心に進める予定である。
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL002と同一。 10/30,11/6
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の創成力、研究力、専門知識
授業の到達目標(学修成果)	受講生が、最先端のデータ解析技術を把握し、スポーツウエルネス分野における課題解決のための応用可能性を議論するとともに、解決すべき新たな課題を創発できるようになる。
授業計画	第1回 ビッグデータ時代の到来と技術革新 第2回 ビッグデータ時代のデータサイエンス 第3回 伝統的な2次元データの解析 第4回 時系列データの解析 第5回 時空間データの解析 第6回 アクセスログデータの解析 第7回 テキストデータの解析 第8回 音声データの解析 第9回 生体データの解析 第10回 画像データの解析 第3回以降の内容は、受講生の関心に合わせて変更する。
成績評価方法	発言50%、レポート50% 評価基準(A+, A, B, C又はD)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	テキスト なし 参考図書 授業中に適宜指定する
オフィスアワー等(連絡先含む)	授業前後に受け付ける。 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	なし
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングア	なし

シスタント(TA)	
キーワード	データ解析

授業科目名	スポーツウエルネス研究演習I
科目番号	OBTS111
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年随時
担当教員	尾縣 貢, 菊 幸一, 水上 勝義, 久野 譜也, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士
授業概要	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンター教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。 中間報告会Iに終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL101と同一。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の創成力、マネジメント力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、国際性、研究力、専門知識、倫理観
授業の到達目標(学修成果)	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。
授業計画	(1) 1 正及び副指導教員3名とのディスカッションを3か月に1回、年4回(8コマ分)行う。 (2) 2 中間報告会への参加及び発表(2コマ分) ・研究計画を立案し、研究テーマの設定のための文献や資料の収集と検討 ・中間報告会Iへの参加 ・中間報告会Iにおける発表(研究テーマおよび研究計画) ・中間報告会における指摘事項への対応に関するレポート作成
成績評価方法	授業での発表内容(50%)、中間発表会での発表内容(25%)、レポート内容(25%) 評価基準(A+, A, B, C又はD)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	テキスト 参考図書 各担当教員よりガイド
オフィスアワー等(連絡先含む)	各担当教員よりガイド
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的な受講態度を望みます。
他の授業科目との関連	OBTS112 スポーツウエルネス研究演習II OBTS113 スポーツウエルネス研究演習III
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	スポーツ, 健康, グローバル, イノベーション

授業科目名	スポーツウエルネス研究演習II
科目番号	OBTS112
単位数	1.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年随時
担当教員	尾縣 貢, 菊 幸一, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士
授業概要	<p>博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。</p> <p>中間報告会IIに終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。</p> <p>スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で1回以上の発表を行う(海外での調査研究に代えることができる)。</p>
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL102と同一。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の創成力、マネジメント力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、国際性、研究力、専門知識、倫理観
授業の到達目標(学修成果)	博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。
授業計画	<p>(1) 正及び副指導教員3名とのディスカッションを3か月に1回、年4回(8コマ分)行う。</p> <p>(2) 中間報告会への参加及び発表(2コマ分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の実施 資料データの解析 プレゼンテーション法 ・中間報告会IIに終日参加 ・中間報告会IIにおける発表(研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況) <p>(3) 中間報告会及び国際学会における指摘事項への対応に関するレポートをそれぞれ作成</p>
成績評価方法	<p>授業での発表内容(50%)、中間発表会での発表内容(25%)、国際学会での発表内容またはレポート内容(25%)</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	テキスト 参考図書 各担当教員よりガイド
オフィスアワー等(連絡先含む)	各担当教員よりガイド
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的な受講態度を望みます。
他の授業科目との関連	OBTS111 スポーツウエルネス研究演習I OBTS113 スポーツウエルネス研究演習III
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングア	なし

シスタント(TA)	
キーワード	スポーツ, 健康, グローバル, イノベーション

授業科目名	スポーツウエルネス研究演習III
科目番号	OBTS113
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	通年随時
担当教員	尾縣 貢, 菊 幸一, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士
授業概要	博士論文合格できる取りまとめ力を身につけるスポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。 スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で口頭発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL103と同一。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の創成力、マネジメント力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、国際性、研究力、専門知識、倫理観
授業の到達目標(学修成果)	博士論文合格できる取りまとめ力を身につける
授業計画	(1) 博士論文合格できる取りまとめ力を身につける博士論文合格できる取りまとめ力を身につける。 (2) 予備審査会で発表を行う。
成績評価方法	授業での発表内容(25%)、国際学会での発表内容またはレポート内容(25%)、予備審査会での発表内容(50%) 評価基準(A+, A, B, C又はD)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	テキスト 参考図書 各担当教員よりガイド
オフィスアワー等(連絡先含む)	各担当教員よりガイド
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的な受講態度を望みます。
他の授業科目との関連	OBTS111 スポーツウエルネス研究演習I OBTS112 スポーツウエルネス研究演習II
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	スポーツ, 健康, グローバル, イノベーション

授業科目名	課題解決型プロジェクトワークI
科目番号	OBTS114
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年随時
担当教員	尾縣 貢, 菊 幸一, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 渡部 厚一
授業概要	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。 この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)を行う。
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL105と同一
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	マネジメント力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、倫理観
授業の到達目標(学修成果)	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける
授業計画	事前計画期間 (1年次4月~から2年次9月まで) (1) テーマ設定 (2) 計画書作成 (3) テーマ設定審査会にて計画発表
成績評価方法	計画書作成(50%)、口頭発表(50%) 評価基準(A+, A, B, C又はD)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	テキスト 参考図書 各担当教員よりガイド
オフィスアワー等(連絡先含む)	各担当教員よりガイド
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的なプロジェクトワークへの取り組みと望みます。
他の授業科目との関連	OBTS115 課題解決型プロジェクトワークII
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	アクションリサーチ, スポーツ, 健康, アクティブラーニング

授業科目名	課題解決型プロジェクトワークII
科目番号	OBTS115
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	通年随時
担当教員	尾縣 貢, 菊 幸一, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 渡部 厚一
授業概要	<p>世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。</p> <p>この授業では、フィールドワーク、事後報告(フィールドワーク報告書の作成、発表)を行う。事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。</p>
備考	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL106と同一
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	マネジメント力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、倫理観
授業の到達目標(学修成果)	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける
授業計画	<p>(1) プロジェクト実施期間(1年次10月~3年次5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備期間も含めて3か月以上のプロジェクト実施 <p>(2) 事後報告会期間(1年次2月~3年次9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 ・プロジェクト実施報告会にて発表
成績評価方法	<p>プロジェクト実施報告書(70%)、口頭発表(30%)</p> <p>評価基準(A+, A, B, C又はD)</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示
教材・参考文献・配付資料等	<p>テキスト 参考図書</p> <p>各担当教員よりガイド</p>
オフィスアワー等(連絡先含む)	各担当教員よりガイド
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的なプロジェクトワークへの取り組みを望みます。
他の授業科目との関連	OBTS114 課題解決型プロジェクトワークI
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	アクションリサーチ, スポーツ, 健康, アクティブラーニング